



## 水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成22年1月26日に開催した「第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）																
	企画運営委員	井伊秀博、北村多津一、木下奈穂、久保重明															
開催日時	平成22年1月26日（火） 18:30～20:30																
開催場所	横浜市開港記念会館 講堂																
出席者	新堀豊彦（※1）、井伊秀博、岩渕聖、片山幸男、北村多津一、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子、木平勇吉、小林信雄、高橋弘二、高橋二三代、沼尾波子、萩原なつ子（※2）、柳川三郎、横田和浩 ※1 主催者あいさつ ※2 コーディネーター																
参加者	205名																
報告者	久保重明																
内 容	<p><b>1. 主催者あいさつ 新堀副座長</b></p> <p>○横浜・川崎市民が使用している水の9割が相模川・酒匂川から供給されている。その水を育む水源環境が様々な原因で荒れてきている。この水源環境を守るため県外上流域を含めた対策を行っていく必要がある。</p> <p>○このフォーラムをステップに、さらにより一層水源環境に関する御関心と御協力をいただきたい。</p> <p><b>2. 水源環境保全・再生施策平成19・20年度 事業実績</b></p> <p>水源環境保全・再生事業の平成19・20年度実績について県・星崎水源環境保全担当課長からパワーポイントにより説明を行った。</p> <p><b>3. パネルディスカッション「これからの水源環境への取組を考える～活動を市民に広げるために～」</b></p> <table border="0"> <tr> <td>コーディネーター</td> <td>立教大学社会学部教授</td> <td>萩原なつ子</td> </tr> <tr> <td>パネリスト</td> <td>日本の竹ファンクラブ 代表</td> <td>平石真司</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>かながわ森林インストラクターの会 理事</td> <td>武川俊二</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長</td> <td>金子勝治</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>川崎市立宮崎小学校教諭</td> <td>草開朝央</td> </tr> </table> <p>各パネリストからの活動報告に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p> <p><b>活動事例・意見発表</b></p> <p><b>（平石氏）</b></p> <p>○水源環境保全の事業として、愛川町と中井町で竹林整備を行っている。味覚狩り等のイベントもやりながら整備を行っている。</p> <p>○活動の成果として、①約4haの竹林整備と②林床植生の回復③独自の地域通貨を発行し、それを使って地域の特産物を購入することにより地域の活性化に貢献したことが挙げられる。</p> <p><b>（武川氏）</b></p> <p>○ボランティアの形には3つあると思う。①行政からの要請に応える形②自らの意思で課題を定め、組織として実践して行く形③自由意志で集まり、捉われることなくことを進めていく形。</p> <p>○ボランティア活動を支えるものは「褒められる喜び」。人が見てくれる場所で活動を行い、それを第三者から評価してもらうことで、そこに喜びを感じる。</p> <p>○会員間で森林整備至上主義、自然観察中心主義など方向性について色々なズレが生じるが、それら個別の取組を全体として捉えることで組織の活動としてはスムーズにいく。</p> <p>○「壮大な夢を描きながら森づくりに励もう」をスローガンに活動に取り組んでいる。</p>		コーディネーター	立教大学社会学部教授	萩原なつ子	パネリスト	日本の竹ファンクラブ 代表	平石真司	〃	かながわ森林インストラクターの会 理事	武川俊二	〃	神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長	金子勝治	〃	川崎市立宮崎小学校教諭	草開朝央
コーディネーター	立教大学社会学部教授	萩原なつ子															
パネリスト	日本の竹ファンクラブ 代表	平石真司															
〃	かながわ森林インストラクターの会 理事	武川俊二															
〃	神奈川トヨタ自動車株式会社 渉外広報部長	金子勝治															
〃	川崎市立宮崎小学校教諭	草開朝央															



新堀副座長

<p>内 容 (続き)</p>	<p><b>(金子氏)</b>  ○環境保護、森林保護のために単に寄付を行うだけでなく、プリウス購入者とともに植樹等の森林保護活動を行うため、1997年に「プリウス森木会」を立ち上げ、99年には第1号の県の水源地パートナー企業に登録した。この13年間で寄附3,800万円、参加人数延べ1,000名という規模にまで発展してきた。  ○今後はやどりき水源地を拠点に活動回数を増やし、他の水源地パートナー企業と催し等でコラボしていきたい。一企業として神奈川を元気にしたいという気持ちで取り組んでいる。</p> <p><b>(草開氏)</b>  ○5年生は、総合学習で環境問題に取り組んでおり、体験を通して環境を学ぶ機会を年間で主に3つ設けており、その一つがやどりき水源地の見学。  ○やどりき水源地に行き、切り株や水生生物の観察を行う。自然を愛し、守っている森林インストラクターの方と行うことで、その経験がより豊かなものとなる。  ○子どもたちはこれらの体験を基に自分たちでテーマを設定、学習し、保護者向けに発表会を行う。  ○この環境への取組が将来を担う子どもたちの心に響くように今後も頑張っていきたい。</p> <p><b>パネルディスカッション</b>  <b>【継続的な活動をし、多くの方に参加していただくには】</b>  <b>(平石氏)</b>  「楽しみながらやる」ということが基本。自分たちだけで楽しむのではなく、異分野の方たちと一緒に楽しむ事が大切。  <b>(武川氏)</b>  自分の興味・関心のみを突き詰めて行くのではなく、他のメンバーが興味・関心を持つ分野にも顔を出して行く。その中で、自分の得意分野を伸ばす。そうしていく事で団体としての多様性が生まれ、多様な人が関わりを持つ事が出来て、広がりが出る。</p> <p><b>【活動を市民に広げるために】</b>  <b>(萩原氏)</b>  人が動く、あるいは参加する動機とはどういうものか。それは「愛」、「義理人情」、そして「おもしろいかどうか」。見せることで、パフォーマンスを上げていくことで、多くの人を惹きつける活動を展開して欲しい。</p>
	 <p>コーディネーター (萩原委員)</p>
	 <p>パネリスト(左から平石氏、武川氏、金子氏、草開氏)</p>

第7回県民フォーラム準備委員の感想

井伊秀博	<p>前回に比べて倍以上の参加者を得たことを素直に喜びたいと思いますが、今回は組織に依存した結果だったと思いますので、この現実を踏まえさらに広く県民の関心を喚起するためには何が必要なのかを考える必要があると思っています。</p>
北村多津一	<p>平日の夜開催という制約にもかかわらず、多くの方々に参加いただいたことはよかったです。このようなフォーラムの開催では、やはり事前のアプローチと横のネットワークのつながりの大切さを改めて実感しました。</p>
木下奈穂	<p>NPO、企業、教育関係者、森林インストラクターと、様々な立場の人々の水源地環境への取組を紹介できて有意義なフォーラムでした。  参集者200人は大変よかったです。より多彩な年代、立場の参集者を増やすことが、今後の課題と感じました。</p>
久保重明	<p>委員・事務局(準備委員会)の合意により、フォーラムは水源地環境保全・再生を身近に感じてもらいように市民と企業の活動報告を中心に組み立てられました。フォーラムが盛会であったのは準備委員会が一体となり、市民に参加を呼び掛けたことによるものです。</p>

## 第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムに係る広報実績について

### 1 県のたより

1月号「みんなで守ろう！水源環境」

### 2 新聞など

- ・ 神奈川新聞「県民の窓」（1月17日掲載）
- ・ 日経新聞（1月20日掲載）
- ・ サンケイリビング（1月23日掲載）
- ・ PLANETかながわ（2009年冬号掲載）

### 3 ラジオ

かわさきFM「かわさき UPSTREAM」（1月6日放送）

### 4 チラシ配布

配布先…県政情報コーナー、税制改革等情報コーナー、市町村機関、  
県内図書館、NPO団体、県民会議委員配布など計4,000部程度配布

### 5 ホームページ

- ・ ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」
- ・ NPO協働推進課ホームページ
- ・ ホームページ「かながわエコBOX」
- ・ ホームページ「かながわの環境」
- ・ アクションポート横浜ホームページ
- ・ 神奈川自然保護協会ホームページ など。

### 6 久保委員、企業等訪問…22箇所

NO.	訪問先	備考
1	神奈川森林協会	
2	コカ・コーラセントラルジャパン(株)	
3	NPO アクションポート横浜	横浜市内市民への広報活動の相談口
4	横浜市市民活動支援センター	横浜市内市民への広報の管理
5	横浜トヨペット労働組合	水源林パートナー
6	(財)かながわトラストみどり財団	
7	連合神奈川	水源林パートナー
8	(社)神奈川県法人会連合会	水源林パートナー
9	JAグループ神奈川	水源林パートナー

10	サンケイリビング横浜支社	水源林パートナー
11	麒麟ビール(株) 横浜支社	水源林パートナー
12	タカナシ乳業(株) 販売企画グループ	水源林パートナー
13	日揮(株) 管理本部人事部	水源林パートナー
14	自治労神奈川県本部	水源林パートナー
15	神奈川トヨタ自動車(株)	水源林パートナー
16	横浜銀行県庁支店	
17	県森林課全国植樹祭推進室	
18	パタゴニア(登山用具店)	
19	ICI 石井スポーツ(登山用具店)	全くの飛び込み
20	東京電力(株) 総務部環境エネルギーG	元水源林パートナー
21	アサヒビール(株) 横浜総括支社業務部	水源林パートナー
22	横浜市庁・市民情報センター	

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約集

番号	項目	内容
1	森林整備等関連項目	林業従事者の労働災害事故（転落、滑落、下敷き）は後を絶たないが、ボランティア従事者が事故にあった際には、十分な補償は得られるのだろうか。
2		ボランティアによる活動であれば、楽しくとか、なだらかに、緩やかに、とか表現していた。それはそれで良いが、 ①森林整備手法にも新技術、新方法が開発されている。それもとり入れたらどうか (1) 皮むき間伐とかの新技術 (2) WEBGISとかの森林調査方法 ②活動のアウトプット=成果、を「見える形=データ化・数量表示」も知ったなら、「達成感」が現実的になる。
3		本来は、林業がビジネスとして成り立つことが望ましいのではないのでしょうか。現状では市民活動に依存せざるをえないと思いますが、林業のビジネスとしての再生のビジョンがあれば、なおよいと思いました。
4		間伐材、国産材の需要が増える様、制度の整備を願います。
5		【竹林整備の地域の選定】 中井町、愛川町は神奈川県としての水源地に相応しいのでしょうか。 このフォーラムの目的に合致していない。 桂川地域の竹林を対象として活動することは考えるべきではないのでしょうか？ もちろん、竹林整備が大切であると考えます。
6		・東京都在住なので、貴県の水資源について実感がわからないのだが、水資源保全は大切な活動だと思う。 ・日本の森林を水を得るために外国企業が買収を計画していると聞いたことがある。この面は日本の大事な資源なので他国に権利が渡らないことを願います。
7		水源環境保全活動ということですが、大きな意味では、健康な森というのは、動物達の生々とした生活も必要なのではと思います。 森林作りに、広葉樹や実の成る木をもっと沢山植林をして、かたよった森林づくりにならないようにして欲しいと思います。
8		森林パートナー制度を増す。
9		“現地現物”主義で現場を重視して欲しい。
10		【平成19・20年度事業実績のうち14ページ 5. 地域水源林整備の支援②について】 予算執行状況の大幅超過の要因として「市町村補助方式」から「市町村が自ら森林を整備する方式」を採用する市町村が多くなった為に事業費が大幅に増えたとあるが 質問1. 当初想定していた方式ではなく、市町村が自ら整備する方式に選択が増えたのはなぜか？やむを得ないのか？ 質問2. 方式が想定外に片寄るとなぜ支援額が増えるのか。 質問3. 今後の予算修正はあるか？
11	やってみたい人・特に団塊世代の男性の力を結集できると力強い。 森林塾のPRをもっと多く行い、マンパワー作りにつなげて下さい。	
12	【森林整備に必要なマンパワーを増やすには】 人手が足りない聞いています。 プロの林業家、セミプロの森林インストラクターやNPO法人、気持はあるが実作業に参画出来てない一般の人々これらのグループがどんなかわり方が出来ると必要なエリアに技術・技能のある十分なマンパワーが確保できるのでしょうか？ 武川さんのキャリア、実体験を通じて思っていることを教えてください。	
13	一度破壊された自然（環境）はなかなか元には戻らない。荒廃する前に保護・保全すべき。	
14	【相模湖の湖沼指定について】 相模湖の湖沼指定について、近々パブリックコメントの募集が国レベルで予定されていますが、県としてどのような取組を予定していますか？また、湖沼指定についてどのように考えますか。	
15	再生に関しての活動は今後広がっていくように思えました。今後は汚濁源の抑制対策に関する活動が広がっていくことを期待しています。	
16	【身近な水環境の改善について】 身近な小川河や水路などで生態保全型に整備し直したり、自然浄化を進めるような設備を作っていくことは、実際の効果は限定的だと思うが、市民に関心をもたせるきっかけや教育効果は非常に大きいと思う。 今後も進めるとともに案内板なども整備して欲しい。また、それらの設備でメンテナンスが必要な場合、専門業者に任せるのみならず、容易なものは学生・生徒のサークル活動や会社・労組・市民団体等のボランティア活動に任せていくと、直接かかわることで、より深く関心を持つ人が増えると思う。 水源林の整備と同じ考え方で。水なので、あまり素人では危ないかもしれませんが。	

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約集

番号	項目	内容
17	何軽減	<p>【安全な(?)飲み水について】</p> <p>近年はおいしい水や体に良い水などとして、PETボトル水が多量に流通したり、水道局でも高度処理をPRしたりしているが、どちらも、余分な資源やエネルギーを使い、廃棄物も出す。</p> <p>行政はどっしりと中長期的な視点に立って、河川水や地下水の改善・保全に取り組み、それが、子や孫の代のおいしく安全な水につながるしていくと説明してほしい。大義があれば、少々の税負担等は理解される。</p> <p>PETボトル水や高度処理が声高にPRされる状況は環境負荷やコストを考えると理性的でなく、商業主義の印象が強い。</p> <p>行政、特に自然対象の取り組みは長期的視野でじっくり取り組んでほしい。</p>
18		相模湖、津久井湖の湖沼指定に向けて県としても国に積極的に働きかけて欲しい。
19	情報提供・啓発	<p>【「事業実績」の説明内容について】</p> <p>①事業実績あるいはその内容について県のHPで見ることが出来るとのことだが、具体的なアクセス（検索のキーワードは何か？）方法を知りたい（探したことがあるが見つからなかった）。</p> <p>②事業内容の結果報告を県民に広く公開しているのかどうか、その方法は？。事業実施現場に於いて、看板などでアピールすることは当該税の使途を目に見える形で現わす機会ではないでしょうか。</p> <p>③実績の評価は誰が、どのように行なっているか？</p> <p>また、（事業仕分けの手法～公開も含めて～を実施しているか）</p>
20		水源を外国ファンドに買われている？とか。水源環境と同時に「水は只でない」事を訴え、「守る」ことを考えねば。※利権化してはいけない。
21		大きな活動として、森林保全や下水道・浄化槽整備は大切だが、水環境に関心を持たせる小さな活動として、身近な用水路の浄化など（できれば市民参加で）も大切だと思う。また、近年、水路が暗渠化されているが、魚や水草が見えれば、まだ身近な水辺と感じられるが、見えなくなると、全く関心外になってしまう。身近な水環境に関心を持たせていく施策も必要だと思う。
22		モニタリングの拡充。 効果の普及啓発。
23		県民にもっとPRして行って欲しい。
24		水源環境保全・再生の市民活動のイベントの広報にもっと力を入れることで、活動を市民に広げることが出来るものとお考える。 (現在の広報の仕方では各団体のイベントに興味を持っている人しかアクセス出来ない)
25		超過課税を含めた保全・再生事業の実施/計画内容について一般県民が理解出来る様な方法でより広く（努力しなくても伝わる様な発信を)公開して欲しい。
26		もっと県民に対するPRが必要である。 時間通りの進行、立派。 県民会議が傍聴可能をPRすればよい。
27	施策大綱のP10の相模原浄水場の入水は相模湖でなくて飯泉なのでしょうか。Web上では現時点では誤りですか。	
28	環境教育	特に、川崎市立宮崎小学校の例のように、子供のころから大いに水源環境保全の大切さの認識を体験的に広げて行っていただきたい。
29		宮前小学校の発表は注目したい。子供たちの森の環境教育、これこそ今日的な本物の教育であり、将来の水源環境保全の担い手育成であると感じた。総合学習が採用されたとき、多くの学校は山をこれからの教育の場と考えていたので。
30		<p>【水源環境保全税の活用について】</p> <p>一般、環境教育（一般・子供）にも助成金を</p>
31	市民活動支援	竹ファンクラブは活動サイトが神奈川県の水源保養林のエリアから、はずれている。これに水源税を支払うことは問題であると考えます。
32		NPOで昨年まで10年ヤビツの森で森林作りを行ってきたが同一団体の契約継続が出来ない規則で今年は手入が出来なかった。8月現地訪問したら鹿の侵入で1/3の木が被害があり、下草も食害がひどい状況でした。たった1年もみたくない期間の放置で大切な森作りが後退するのは残念です。NPOでも真面目な活動する団体について正しい評価と継続を望みます。
33		ボランティア団体のみでは活動拡大に限界があると思う。行政の支援が必要と思う。一金銭面以外でも市、町が係っていることを地元住民が知ることが大切に思う。一地元住民はよその人達が来て、勝手に何かやっていると見ている。行政も地元住民にPRが必要。
34	市民団体等への支援は続けていくべきだが、惰性にならないよう注意すべき。	

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約集

番号	項目	内容
35		“活動を市民に広げるために”ということですが、学生（私もそうですが）の中には環境保全に興味を持ったり、携わりたいと思っている人が意外とたくさんいると思います。学生でも気軽に参加できるような取組が増えるといいなあと思います。 本日は貴重なお話をありがとうございました。
36		・企業には環境活動の安定性（継続性）をどうすれば確保できるか。 ・企業とボランティア団体（市民グループ）の出会いの機会を広げるにはどうするか。 行政が仲人となれるか。資金的な支援もできるか。⇨頼りすぎにならないか。 ⇒全体として伸ばしていけるとよいと思う。
37		相模川水系の上流域の大部分は県外であり、神奈川の水源環境保全を考えるなら、水源環境税の県外投資は不可欠ではないかと考えますがいかがでしょうか。（当初の想定された額より、低いのではないのか？）
38		本年4月から山梨県でも水源税が導入されるので、（酒匂川の上流の静岡県は既に導入済み）上下流の三県の協働を強化して、この事業の効果を最大限にいかしてほしい。究極的には、山静神サミットを発展させ、「山静神水源環境保全一部事務組合」や「同広域連合」にまで発展させてほしい。
39	県外対策	・桂川上流の川の異常な汚さの状況をもっと知らせるべきである。 ・富士吉田、都留の住民がゴミや汚水を平気で流している。 ・両市への働きかけをもっとすべきだ。 ・桂川の奇形魚の多さも異常であり、魚の害の有無の分析も必要。
40		県民の水がめであり、相模川水系の上流域である。山梨県の水源環境整備にもっともっと投資して下さい。
41		今回、特に印象に残ったのは、神奈川の水源が山梨にあり、山梨の人工林（私有林）のうち約60%が荒廃地であるということ。ここは神奈川と山梨で協力して解決していくべきだと思います。
42		【活動資金はどのようにしていますか】 大勢の参加者で活動していらっしゃいますか。 活動する為には財源が年間どのくらいで？ 又、主に何に使っていますか。
43		【会場の方々とも意見求めて、いきたいに関して提案】 皮むき間伐をやりませんか。 小さい子供でも、女性でも、比較的簡単に安全にやれます。チェーンソーなど使わないでもやれる。皮むきした木は、1年位立ち木のまま放置すると、切るのも比較的容易、そして軽くなっているので倒した後の運搬も楽です。
44		今回初めての出席で内容が今1つ分からないのですが、ボランティアとはいえ、お酒の方にウエイトがおかれるのもどうかと思う。もう少しまじめに考えてほしい。
45		以前自分が飲んでいる水に関心を持ち調べたことがありました。その結果自分が森林インストラクターとして活動している県西部の森林が自分の飲み水に直結していることを知り、驚きました。知らないことが多い水源環境ですが、機会あるごとに水・水源の話を多くの方にしております。これからも森林インストラクターとしてしっかり働きたいとの思いを強くしました。
46		普段、当たり前の様に水を使用しているが、水源があつてのことなので、その水源環境保全を楽しみながら行っている方々がいることに、頭が下がります。今後の活動を応援したいと思います。
47		【竹の間伐について】 例えばA地区の面積の間伐して整備したというが、 1. 数量でいえばどれ位 2. 整備したものを、どう処理したか 具体的にそれぞれの量はどれ位。 具体的な量が明らかでないなら、「成果」と、言えないのではないか。
48	その他	【依頼をしたい人がいたらどうすればよろしいですか？】 県内どこでも可能ですか？
49		【活動の参加申込みについて】 どのような形で参加申込みを募っているのでしょうか？ より多くの方の参加に向けた広報の努力を教えてください。
50		【森林整備のサイトの選定】 やどりき等の森林整備活動に敬意を表します。 各活動サイトの選定はどのように行なわれているのでしょうか？ 私有林ですか or 公有林でしょうか。 さらに、整備方針は、森林のオーナーとの合意は、どのようにされているのでしょうか？ 貴会は整備において選定基準を作っているのでしょうか？

第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（横浜・川崎地域フォーラム）意見集約集

番号	項目	内容
51		【活動の参加申込みについて】 どのような形で参加申込みを募っているのでしょうか？ より多くの方の参加に向けた広報の努力を教えてください。
52		【活動フィールド・学習場所を他の地域で参加希望？】 水源の学習を年間を通して行うことはたいへん重要なことと感じています。相模川の流域には関心をお持ちでしょうか。
53		・このようなフォーラムに出席し実に勉強をさせて頂きました。 ・水源環境保全・再生にこのような分野がある事、あつく熱心な方々に感動。
54		県域の様々な団体・個人に活動がゆっくと拡大しており、将来に期待しています。ただ、個別の自然愛好の気持と、水源環境を保全するには総合的な視野が必要でその連携が不可欠との課題をどのように繋げていくのか、その点を考えざるを得ないと思います。個別性と全体性の両方が大事。
55		毎日、水が使えるありがたさを感じた。
56		県からの説明の後に質問の時間がほしかった。 アンケート用紙への記入は面倒。

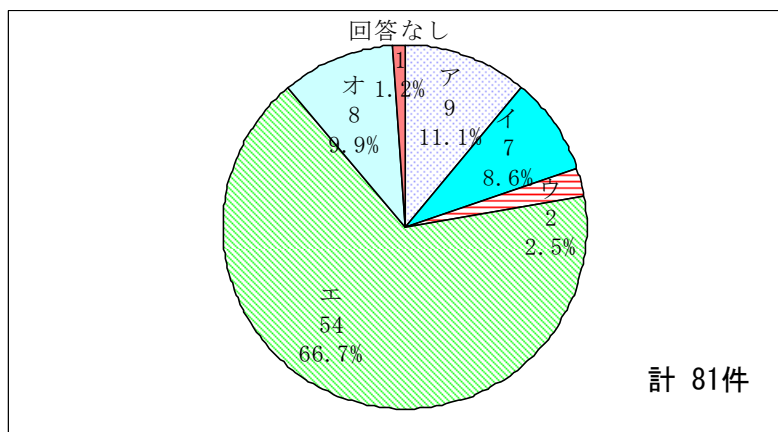


第7回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム  
アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。（詳細は別紙のとおり）

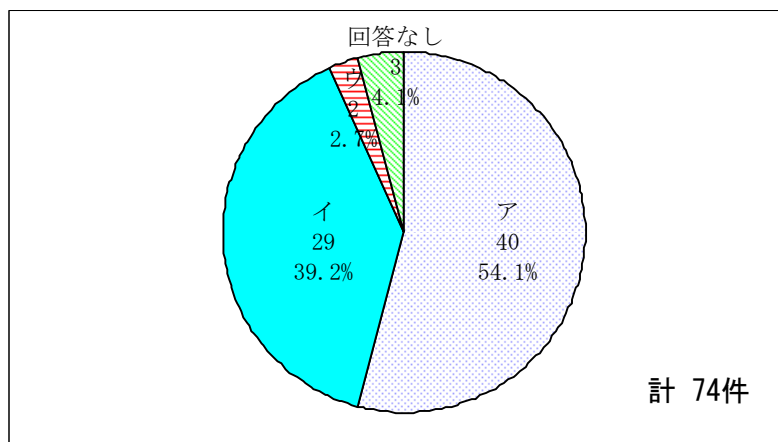
- 回収したアンケート…74枚
- 今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方…21名

Q1 本日のフォーラムのことをどのように知りましたか。（一部複数回答あり）  
 ア 県のたより                      イ 公共機関での配布物                      ウ 県のホームページ  
 エ 所属する団体を通じて                      オ その他



オ その他の主な内容  
 ・ 知人から

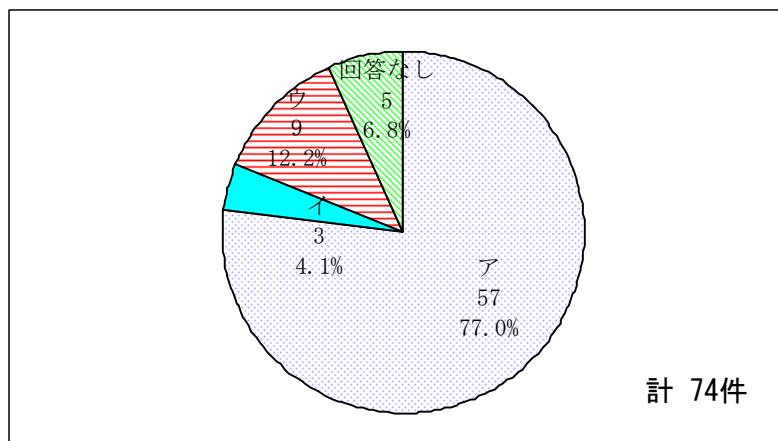
Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。  
 ア 良かった                      イ 普通                      ウ 改善が必要



主な理由

- ア
  - ・ 様々な立場の方から話が聞けて、大変勉強になった。
  - ・ 色々な活動を知ることができた。
- イ
  - ・ パネリスト同士のディスカッションを聞いたかった。

Q3 今回のフォーラムを通じて水源環境を守る活動に興味がありましたか。  
 ア わいた                      イ わかなかった                      ウ その他

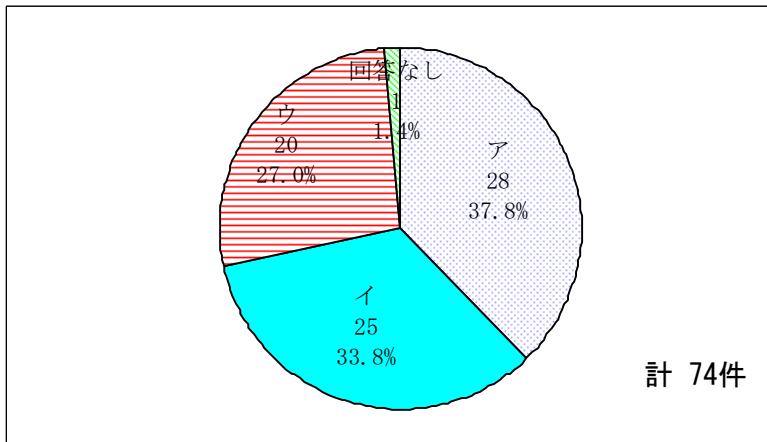


ウ その他の主な内容

- ・ 元々興味があった
- ・ 既に活動中

Q 4 今後、水源環境保全活動に関わる予定はありますか。

- ア 予定している                      イ 機会があれば参加してみたい  
 ウ 特に予定はない

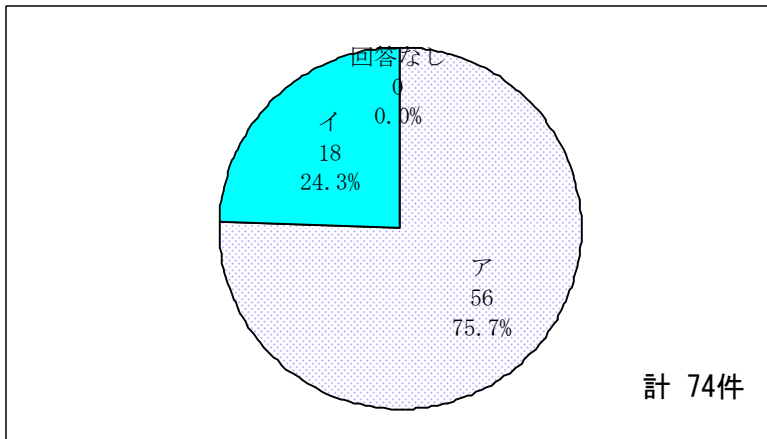


主な内容

- ア  
 ・森林インストラクターとして活動  
 ・森林整備  
 ・植樹祭参加  
 イ  
 ・竹ファンクラブ  
 ・植林、間伐活動

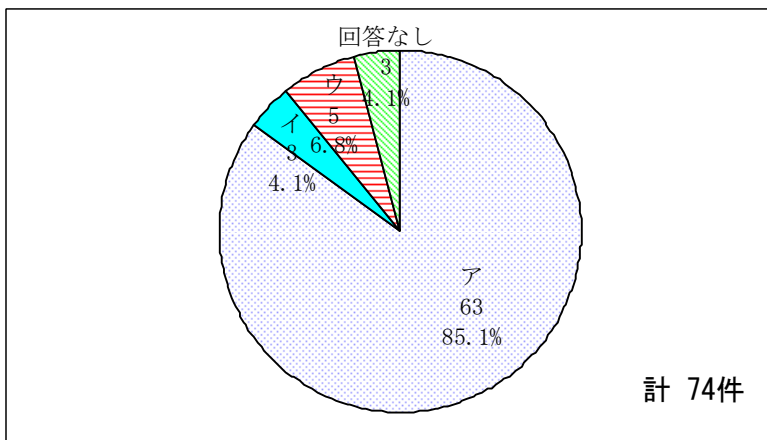
Q 5 「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。

- ア 知っていた                      イ 知らなかった



Q 6 水源環境保全税で今後も市民団体の支援を継続して行くべきだと思いますか。

- ア していくべき                      イ やめるべき                      ウ その他

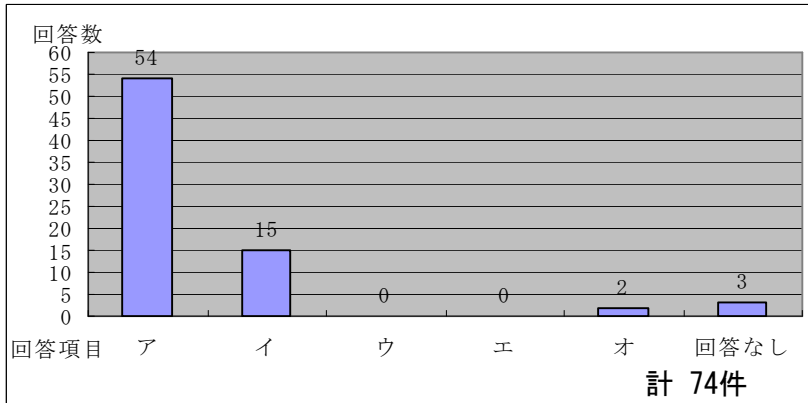


ウ その他の主な内容

- ・活動内容精査による支援は必要。
- ・基本的に継続していくべきだが、より税の使途等の情報を広く公開していくべき。

Q 7 水源環境保全・再生施策は今後どうしていきべきだと思いますか。

ア さらに拡充すべき      イ 現状維持      ウ 縮小すべき  
エ 廃止すべき              オ その他



オ その他の主な内容

- ・拡充すべきだが、活動をもっと多くの人に周知するのが先では？
- ・細かくみて、やめるなり進めるなりしていけばよいと思う。

## 水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成22年2月27日に開催した「第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第8回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）													
	企画運営委員	岩渕聖、小林信雄、柳川三郎												
開催日時	平成22年2月27日（土） 13:00～16:00													
開催場所	藤沢リラホール													
出席者	井伊秀博、井上信康、岩渕聖、片山幸男、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子、木平勇吉（※2）、小林信雄、高橋二三代、蓮場良之、増田清美、柳川三郎（※1）、 ※1 主催者あいさつ ※2 コーディネーター													
参加者	131名													
報告者	岩渕聖													
内 容	<p><b>1. 主催者あいさつ 柳川三郎委員</b></p> <p>○神奈川の水を育む水源林は荒廃してきている。しかし、多くの人が水は蛇口をひねれば、いつでも、いつまでも出るという気持ちで生活しているのではないか。</p> <p>○次世代に豊かな水を残していくためにも、今回のフォーラムで大いに学び、共に行動していきましょう。</p> <p><b>2. 水源環境保全・再生施策 平成19・20年度事業実績</b></p> <p>水源環境保全・再生事業の平成19・20年度実績について県・星崎水源環境保全担当課長から説明を行った。</p> <p><b>3. パネルディスカッション</b></p> <table border="0"> <tr> <td>コーディネーター</td> <td>東京農工大学名誉教授</td> <td>木平勇吉</td> </tr> <tr> <td>パネリスト</td> <td>神奈川野生生物研究会 副代表</td> <td>川手隆生</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>丹沢大山自然再生委員会 委員</td> <td>羽澄俊裕</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>有限会社川又林業 代表取締役</td> <td>川又正人</td> </tr> </table> <p>コーディネーター・パネリストからの発表に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p> <p><b>コーディネーター・パネリスト発表</b></p> <p><b>（木平氏）</b></p> <p>○水源環境を考えるにあたっては、①どんな環境にしたいのか②それをどのように実現するのかという視点が大切である。</p> <p>○天然林、モザイク模様の森、育てられた雑木林、下草で覆われた人工林などは水源の森としてたいへん良い。水源環境保全税の必要ない森を作ろう。</p> <p><b>（川手氏）</b></p> <p>○野生生物の観点から水源の森を見る事も大切である。</p> <p>○森づくりには多様な生物が関わっており、生物多様性に富む森こそ良い水源の森である。</p> <p>○その生物多様性の指標となる生き物がクマタカであるが、シカの食害など様々な要因で生息環境が悪化してきている。</p> <p>○施策大綱に記載があるように、生物多様性に配慮した森林整備が必要。</p> <p><b>（羽澄氏）</b></p> <p>○シカが植生を食べ尽くすことで、他の動物の餌もなくなるし、水源の森にも悪影響。シカをどうするかが一番の問題。</p> <p>○シカはどんどん分布を拡大している。また、降雪量の減少などの要因でシカが大幅に個体数を減らすこともなくなった。</p>		コーディネーター	東京農工大学名誉教授	木平勇吉	パネリスト	神奈川野生生物研究会 副代表	川手隆生	〃	丹沢大山自然再生委員会 委員	羽澄俊裕	〃	有限会社川又林業 代表取締役	川又正人
コーディネーター	東京農工大学名誉教授	木平勇吉												
パネリスト	神奈川野生生物研究会 副代表	川手隆生												
〃	丹沢大山自然再生委員会 委員	羽澄俊裕												
〃	有限会社川又林業 代表取締役	川又正人												



柳川委員

<p>内 容 (続き)</p>	<p>○生態系という視点で考え、シカの母数そのものを減らすとともに、時期的、地理的な面で森林施業とシカ管理を一体的にやる必要がある。このままでは丹沢は死の山になってしまう。 (川又氏)</p> <p>○神奈川県が担い手不足を解消するために、森林塾を創設したことは評価できるが、費用対効果に疑問がある。</p> <p>○間伐した木の半分は捨ててしまう。これを木質バイオマスとして活用すべきではないか。</p> <p>○森が生きもので溢れていることで森の健全性が保たれる。また、その生きものたちと暮らすことが林業の醍醐味。</p> <p><b>パネルディスカッション</b> 【広葉樹に手を入れるのは疑問】 (川手氏)</p> <p>広葉樹の森に手を入れることは、生物多様性に悪影響ではないか。本当に水源の森のためになるのか科学的検証が必要。また、手入れは地主の意向に縛られることもあるだろうが、行政はどこを水源の森として作っていくのかもっと考えるべき。森林整備の補助金で広葉樹林が伐採されているところもあり、用途の検証が必要、基本的に広葉樹に手を入れるべきではない。</p> <p>【森林施業の技術の伝承、将来の見通しは】 (川又氏)</p> <p>立派な木材を作るには3～4世代に渡って手を入れ続けなくてはならず、大変。林業に懸ける思いを伝えていけるか疑問だが頑張っていきたい。</p> <p>【森林施業とシカ管理の一体化、具体的には】 (羽澄氏)</p> <p>森林施業の計画は基本的に林班単位で行う。どの林班をいつ整備するか決めた段階で、植生の回復などにより、その周辺のシカ個体数増加が予想されるなら、そこで個体数調整を行う。単に整備を行うのではなく、シカの移動などを考慮したきめ細かな対応が今後は必要となってくる。マップとスケジュールが大事。</p> <p>【パネルディスカッションまとめ】 (木平氏)</p> <p>我々納税者の責任は意見を言うことである。言うだけでなく、自分の出来る範囲のことをやることも大事。現場を見て、意見を言うことで水源環境が良くなっていくだろう。</p>
---------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



コーディネーター  
(木平委員)



パネリスト (左から川手氏、  
羽澄氏、川又氏)

第8回県民フォーラム企画運営委員の感想

<p>岩渕聖</p>	<p>これまでのフォーラムではほとんどなかった、水源の森に生息する動物からの視点での意見が出されたことは有意義であったと思うが、未だシカ以外の動物と水源の森との関連については、あまり理解されていない印象を受けたので、同様のテーマで再度実施したい。</p>
<p>小林信雄</p>	<p>水源の森林が荒廃している様子や再生へ取り組む現場を映像とトークで参加者へアピールし、意見交換できたこと有意義でした。森林の理解を広めるには学校教育の場で学習に取込む必要があるとの指摘が印象に残りました。猛禽類の強調は今回のテーマと違和感がありました。</p>
<p>柳川三郎</p>	<p>開催関係者および出演者等が必死に取り組む姿によって会場はボルテージがアップした雰囲気がつくられました。今回は生物多様性の重要性について意見が多く出されたが、基準は目指す良い水源の森づくりに努力をすべきとの必要の強調は底上げが図ることができたと感じました。</p>

# 藤沢で県民フォーラム

■よこすか・しようなん

# 豊かな水源守ろう



多様な野生生物がいることの重要性について語る専門家  
—藤沢市の藤沢リラホール

水源環境の保全・再生について考  
える県民フォーラムが27日、藤沢市  
鶴沼石上の藤沢リラホールで開かれ  
た。約120人が来場し、パネルデ  
ィスカッションなどを通じて森林や  
河川、地下水など良質な水源を守る  
方策を学んだ。  
(高田 俊吾)

水源環境保全を目的に、県  
は2007年度から、年間約  
38億円(1人平均約950円)  
に上る個人県民税の超過課税  
を実施。これを財源に、森林  
の保全や河川の改修、ダム湖  
えた。

## 森林保全考える

の水質改善など計12事業を5  
カ年計画で推進している。  
県民の意見を施策に反映さ  
せる取り組みとして、有識者  
や県民の公募委員らでつくる  
「県民会議」も設置。フォー  
ラムはこの県民会議が地域別  
に開いているもので、09年度  
は藤沢のほか、1月に横浜で  
開いた。

藤沢のフォーラムでは、県  
環境農政部がこれまでの取り  
組みや実績を報告。県民会議  
の委員が県内の水源地の現状  
について、写真を見せながら  
紹介した。

水源地の森林をテーマにし  
たパネルディスカッションで  
は、野生生物の専門家や林業  
関係者らが研究や取り組みを  
発表した。生物の多様性の重  
要性や、増えすぎたシカの管  
理の必要性、林業の現状など  
を通じて豊かな森づくりを訴  
えた。